

令和4年度 教職課程の自己点検・評価結果概要

大項目	No.	中項目	評価
1.教育理念・学修目標	1-1	教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	A
2.授業科目・教育課程の編成実施	2-1	全学的な教職課程のマネジメント体制	A
	2-2	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	A
	2-3	教育課程の体系性	A
	2-4	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	A
	2-5	キャップ制の設定状況	A
	2-6	教育課程の充実・見直しの体制	A
	2-7	個々の授業科目の到達目標の設定及びシラバスの作成状況	A
	2-8	シラバスの作成状況	A
	2-9	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	A
3.学修成果の把握・可視化	3-1	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表及び共通理解の構築状況	B
	3-2	教員養成の目標達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	A
4.教職員組織	4-1	教員の配置の状況	A
	4-2	教員の業績等	A
	4-3	職員の配置状況	A
	4-4	FD・SDの実施状況	A
	4-5	授業評価アンケートの実施状況	A
5.情報公開	5-1	教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	A
6.教職指導（学生の受入）	6-1	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	A
	6-2	学生に対する履修指導の実施状況	A
	6-3	学生に対する進路指導の実施状況	B
7.関係機関等との連携	7-1	教育委員会や関係団体等との連携の状況	B
	7-2	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	A
	7-3	学外の多様な人材の活用状況	A

【評価基準】

A：十分に達成している

B：おおむね達成している

C：改善すべき点がまだ少しあり、達成しているとは言えない

D：改善すべき点が多く、到底達成しているとは言えない

令和4年度 教職課程の自己点検・評価報告書

評定	評価基準
A	十分に達成している
B	おおむね達成している
C	改善すべき点がまだ少しあり、達成しているとは言えない
D	改善すべき点が多く、到底達成しているとは言えない

大項目	No.	中項目	回答	評価
1.教育理念・学修目標	1-1	教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況 [観点] ・目指す教員像などの教員養成の目標とそれを達成するための計画が具体的かつ明確な形で設定されているか	・本学の教職課程では、目指す教師像（教職に対する強い情熱・教育の専門家としての確かな力量・総合的な人間力を兼ね備えた実践的指導力のある教師）とともに、その実現に向けた具体的な計画も設定している。特に、教育実習関連科目においては、1年次から切れ目のない体験活動等を系統的に組み込み、実習生が自信をもって教育実習に取り組めるように工夫している。	A
	関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き 1-1-2 令和4年度教育実習関連科目に関する展望資料（前期ガイダンス資料） 1-1-3 履修カルテ		
	2-1	全学的な教職課程のマネジメント体制 [観点] ・全学的な組織を設置して、教職課程の編成・実施に関する事項について適切に管理運営を行っているか	・教職課程に関する全学的な組織として「教育実習等運営委員会」が設置されており、教職課程の編成・実施に関する事項についての決定・実施・管理を適切に行っている。	A
	関係資料	2-1-1 令和4年度シラバス 2-1-2 教職および博物館学芸員課程委員会規程 2-1-3 令和4年度授業評価アンケートの結果		
	2-2	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況 [観点] ・ICT環境（オンライン授業含む）、講義室、関連する図書など、教育課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	・令和7年11月に予定されている新たな「大学基幹システム」の導入を見据えてICT教育に対応していく方針である。 ・令和5年度4月に新電子黒板を導入予定 ・今年度から教職実践演習(4年次)にICT活用指導力向上のため講座を新設。また、1年次には「教育におけるICT活用概論」(1単位)を新設した。 ・教職関連科目でGoogle Jamboard等のアプリを導入し、遠隔授業に対応した授業実践を実施した。令和5年度からはClassroomを導入予定。 ・令和5年度に教職支援室所属教員個人へipad導入予定。 ・教職関連図書は附属図書館および学生が入室可能な「教職および博物館学芸員課程センター」に揃えている。	A
	関係資料	2-2-1 令和4年度秋田公立美術大学履修の手引き 2-2-2 秋田公立美術大学ウェブページ 2-2-3 秋田公立美術大学ウェブページ（付属機関リンク集）		
	2-3	教育課程の体系的性 [観点] ・法令及び教員養成の目標、当該目標の達成のための計画に基づいて必要な授業科目が開設されているか ・教職課程科目とそれ以外の科目との関連性が適切に確保されているか	・中学校美術科教諭と高等学校芸術科（美術、工芸）教諭の養成に必要な授業科目については、定期的に検討している。教育職員免許法施行規則の改正に伴い、令和3年から、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関する事項の新設等を行った。「教育におけるICT活用概論」等の新設及び各指導法における指導内容の適正対応を図っている。授業評価に関しては、授業ごとに授業評価アンケートを実施している。自由記述を含め、アンケート結果を踏まえて、次年度の授業内容の改訂を行っている。本学の教職課程では、美術学科の5つの専攻で培った美術の専門性を生かし、近隣地域の小・中学校、高等学校等の協力による学校体験実習・教育実習等での学びや教職の授業を通して段階的に「教育的情熱・力量、総合的な人間力を持ち、学び続けることのできる教員（美術・工芸）」の資質・能力を育む教育内容となっている。教職課程コアカリキュラムを基に、教職課程の各授業の責任者と共に検討している。	A
	関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き 2-1-1 令和4年度シラバス 2-1-3 令和4年度授業評価アンケートの結果 2-2-1 令和4年度秋田公立美術大学履修の手引き		

令和4年度 教職課程の自己点検・評価報告書

評定	評価基準
A	十分に達成している
B	おおむね達成している
C	改善すべき点がまだ少しあり、達成しているとは言えない
D	改善すべき点が多く、到底達成しているとは言えない

大項目	No.	中項目	回答	評価		
2.授業科目・教育課程の編成実施	2-4	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	<p>・1年次前期に必修の「情報リテラシー論」でICTの基礎的能力や知識を修得し、集中講座「教育におけるICT活用技術」で教育とICTの関わりを学ぶ。それらを踏まえて教職実践演習で、校務においてICTの果たす役割や、ICTを活用した美術授業のあり方について演習を行うという流れになっている。また、学生は専門の授業等を通してICTの高度な技術や知識を身に付けており、それらと教職の学びが効果的に連携できている。</p>	A		
		[観点] ・教員として身につけるべきICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか ・到達目標や学修量が適切な水準となっているか				
	関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き 1-1-2 令和4年度教育実習関連科目に関する展望資料(前期ガイダンス資料) 2-2-1 令和4年度秋田公立美術大学履修の手引き				
	2-5	キャップ制の設定状況			<p>・学生が効果的な学修時間(予習復習を含む自主的な学修時間)を確保できるよう、CAP制を設定している。1年間の履修登録単位数の上限は44単位。 ※自由科目の単位数は含めない。</p>	A
		[観点] ・1単位あたりの学修時間を確保する上で各学期に履修申請できる単位数を適切に設定しているか				
	関係資料	2-2-1 令和4年度秋田公立美術大学履修の手引き (p.6)				
	2-6	教育課程の充実・見直しの体制			<p>・授業終了時に記入する振り返りレポート、全学的な学生授業評価、個人面談での授業への感想等を、毎週実施している教職課程関係者の会議で情報共有し、教育課程の改善につなげている。また、実習連絡協議会において、教育委員会や現職校長等からカリキュラムに関する助言をいただいている。</p>	A
		[観点] ・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しの体制づくりができているか				
	関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き				
	2-7	個々の授業科目の到達目標の設定及びシラバスの作成状況			<p>・教職課程コアカリキュラムに基づき、シラバスの一項目に「授業の到達目標及びテーマ」が設定されており、記載については必須項目とされている。「授業の到達目標及びテーマ」を達成する具体的内容の概要は「授業の概要」で示している。また、明示された「授業の到達目標及びテーマ」を達成するまでの「授業計画」では各段階での学習内容を明示している。また最終的な評価における「評価方法」を明示している。</p>	A
[観点] ・法令、教員養成の目標及び到達目標を達成するための計画、学修指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか						
関係資料	2-1-1 令和4年度シラバス					
2-8	シラバスの作成状況	<p>・全ての科目において、授業の到達目標及びテーマ、授業の概要や授業計画を記載している。</p>	A			
	[観点] ・授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画等が明確に記載されているか					
関係資料	2-1-1 令和4年度シラバス					
2-9	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	<p>・教育実習の事前事後指導では、全体指導の他に、担当教員との個人面談を何度も重ねて、学生個々に応じた手厚い支援に努めている。 ・教育実習では、担当教員が全ての実習校に出向いて授業参観と直接指導を行うことができた。 ・教職実践演習では「教員に必要な資質能力に関する自己評価」の結果を踏まえて演習のテーマを決定し、アクティブラーニングの視点を踏まえた学びを実施している。</p>	A			
	[観点] ・教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習(学校体験活動含む)は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか					
関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き 2-9-1 教育実習訪問指導報告書(令和4年度) 2-9-3 担当教員と履修生との個人面談の記録(令和4年度)					

令和4年度 教職課程の自己点検・評価報告書

評定	評価基準
A	十分に達成している
B	おおむね達成している
C	改善すべき点がまだ少しあり、達成しているとは言えない
D	改善すべき点が多く、到底達成しているとは言えない

大項目	No.	中項目	回答	評価
3.学修成果の把握・可視化	3-1	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表及び共通理解の構築状況	・各授業科目の到達目標は、シラバスの記載項目「授業の到達目標及びテーマ」において明記されている。評価方法については、同様にシラバスの記載項目「評価方法」で評価対象を配点の割合別に示しているが、各評価対象の評価基準については記載が無く達成水準が不明瞭である。各評価対象における評価の観点を明記し、より共通理解を図る必要がある。	B
		[観点] ・成績評価基準に基づく評価と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか		
	関係資料	2-1-1 令和4年度シラバス		
	3-2	教員養成の目標達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況		
[観点] ・教員養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか、教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか				
関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き 1-1-2 令和4年度教育実習関連科目に関する展望資料（前期ガイダンス資料）			
4.教職員組織	4-1	教員の配置の状況	・必要専任教員数を満たしている。	A
		[観点] ・教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか		
	関係資料	4-1-1 令和4年度秋田公立美術大学の認定課程における学科等の教育課程の変更届（新旧対象表）		
	4-2	教員の業績等		
		[観点] ・担当授業科目に関する研究実績や担当教員の学校現場等での実務経験は十分か		
	関係資料			
	4-3	職員の配置状況	・学生課に3名の教職課程担当者を配置し、適切に運営している。	A
		[観点] ・教職課程を適切に実施するため、事務組織を設けているか		
関係資料				
4-4	FD・SDの実施状況	・大学全体で開催されるハラスメントや授業改善に関するFD・SD研修会に参加し、授業の質を向上させるよう努めている。		
	[観点] ・いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身につけさせるためのFD・SDが確実に実施されているか			
関係資料				

令和4年度 教職課程の自己点検・評価報告書

評定	評価基準
A	十分に達成している
B	おおむね達成している
C	改善すべき点がまだ少しあり、達成しているとは言えない
D	改善すべき点が多く、到底達成しているとは言えない

大項目	No.	中項目	回答	評価	
	4-5	授業評価アンケートの実施状況 [観点] ・個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	・前・後期末に学生へ授業アンケートを実施し、授業の分かりやすさや内容が適切であったか等、授業評価を収集している。収集結果についてはポータルサイトを通じて各授業担当教員へ共有し、全体の評価ポイントが低い授業の担当教員には授業改善計画書の提出を求め、授業内容の見直しに活用している。	A	
	関係資料	4-5-1 授業アンケート設問一覧 4-5-2 授業改善計画書（様式）			
5.情報公開	5-1	教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況 [観点] ・法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか	・大学ホームページに掲載した。	A	
	関係資料	5-1-1 教育の特色・特徴（大学webページ）			
6.教職指導（学生の受入）	6-1	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況 [観点] ・入学希望者に対して、教職課程に関する情報や入試、奨学金等に関する情報を幅広く提供できているか ・教職課程履修者の確保のため、新入生等への情報提供は充分行っているか	・大学案内に教職課程紹介のページを掲載した。 ・7月と10月に開催したオープンキャンパスにおいて教職課程を紹介するプログラムやブースを設け、入学希望者にアピールしたほか、進学相談会では、入試情報、奨学金に関する情報を提供し、教員免許が取得可能であることを丁寧に説明した。 ・4月に新入生を対象に教職ガイダンスを開催し、教職の魅力や具体的な履修の流れについて説明する機会を設けた。 ・教職課程を履修中の学生を対象とした教職ガイダンスを開催し、県教育委員会から担当職員を招聘しての教員採用試験や講師登録の説明会、本学と他大学との提携プログラム、奨学金等についての情報提供を行った。	A	
	関係資料				
	6-2	学生に対する履修指導の実施状況 [観点] ・必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行っているか ・「履修カルテ」を適切に活用できているか			・履修カルテを用いた面談指導を通して、個々の学生の教職課程における学修状況の把握に努めた。 ・教職に必要な資質・能力に関する自己評価等をもとに、教職を目指す上での課題等について指導・助言を行った。
	関係資料	1-1-3 履修カルテ 6-2-1 学生との個人面談記録			
6-3	学生に対する進路指導の実施状況 [観点] ・学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	・教職志望の学生を対象に、教員採用試験対策セミナーを開講し、教職教養、専門教養の問題演習をはじめ、エントリーシートの記載方法を含めた面接試験対策や実技試験対策、模擬授業の演習等、受験志願自治体に応じた個別指導に努めている。 ・キャリアセンターと連携し、求職情報や教員採用試験情報の周知に努めるほか、教員採用に関する情報を含めた「教職支援室だより」を発行している。 ・4年生を対象とした「教職実践演習」において、本学出身の若手教員等との懇談会を開催し、教職の意義と職業人の責務について実感する機会を設定している。	B		
関係資料	6-3-1 令和4年度教員採用試験対策セミナー実施要項【前期】 6-3-2 令和4年度教員採用試験対策セミナー実施要項【後期】 6-3-3 令和4年度「教職実践演習」全体計画 6-3-4 令和4年度教職支援室だより1号				

令和4年度 教職課程の自己点検・評価報告書

評定	評価基準
A	十分に達成している
B	おおむね達成している
C	改善すべき点がまだ少しあり、達成しているとは言えない
D	改善すべき点が多く、到底達成しているとは言えない

大項目	No.	中項目	回答	評価
7.関係機関等との連携	7-1	教育委員会や関係団体等との連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習校を所管する秋田県教育委員会、秋田市教育委員会の担当者や実習校の校長などを外部委員とする「実習連絡協議会」を開催し、カリキュラムや科目内容、教育実習の状況等について協議し、教育課程の改善に努めている。 ・秋田県が主催する「秋田県教職キャリア協議会」において、教員育成指標の活用と改善等にかかる協議に参画し、その成果等を授業内容の改善や学生指導の充実に生かしている。 	B
		[観点] ・教員の採用を担う教育委員会や実習校等関係団体と適切に連携を図り、教員養成指標を踏まえた教育課程の充実や学生の指導の充実につなげることができているか		
	関係資料	7-1-1 秋田公立美術大学実習連絡協議会要綱 7-1-2 秋田県教職キャリア協議会設置要綱		
	7-2	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次では近隣の小学校と中学校及び附属高等学院への観察実習、2年次は介護体験実習、グループでの中学校及び高校での授業実習を体験した上で、3年生での教育実習に繋げている。 ・教育実習に当たっては、事前指導事後指導を行っている。さらに教育実習校には教員による事前訪問や研究授業への参観指導を行って有益な体験となるようにしている。 	A
		[観点] ・教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか ・学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか		
	関係資料	1-1-1 令和4年度教育実習の手引き		
7-3	学外の多様な人材の活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職入門、学校体験実習1・2、教育実習事前事後指導、教職実践演習などにおいて、教育行政機関や小・中・高等学校、県外の大学院等と連携し、専門性の高い特別講師を招聘している。 	A	
	[観点] ・学外の諸機関との連携の下、教職課程の充実に向けて、学外の多様な人材を実務経験のある教員又は学外講師として活用することができているか			
関係資料	7-3-1 学外講師招聘申請書			

自己点検・評価報告書に記載される関係資料一覧

No	資料の名称
1-1-1	令和4年度教育実習の手引き
1-1-2	令和4年度教育実習関連科目に関する展望資料（前期ガイダンス資料）
1-1-3	履修カルテ
2-1-1	令和4年度シラバス
2-1-2	教職および博物館学芸員課程委員会規程
2-1-3	令和4年度授業評価アンケートの結果
2-2-1	令和4年度秋田公立美術大学履修の手引き
2-2-2	秋田公立美術大学ウェブページ
2-2-3	秋田公立美術大学ウェブページ（附属機関リンク集）
4-1-1	令和4年度秋田公立美術大学の認定課程における学科等の教育課程の変更届（新旧対象表）
4-5-1	授業アンケート設問一覧
4-5-2	授業改善計画書（様式）
5-1-1	教育の特色・特徴（大学webページ）
6-2-1	学生との個人面談記録
6-3-1	令和4年度教員採用試験対策セミナー実施要項【前期】
6-3-2	令和4年度教員採用試験対策セミナー実施要項【後期】
6-3-3	令和4年度「教職実践演習」全体計画
6-3-4	令和4年度教職支援室だより1号
7-1-1	秋田公立美術大学実習連絡協議会要綱
7-1-2	秋田県教職キャリア協議会設置要綱
7-3-1	学外講師招聘申請書